

校番	68	学校名	広島県立祇園北高等学校	校長氏名	柘磨 昭孝	☎・定・通	☎・分
----	----	-----	-------------	------	-------	-------	-----

1 ミッション (地域社会における自校の使命)

「敬愛・信義・忍耐」の校訓のもと、文武両道を実践し、高い志・真の学力・豊かな心・グローバルな視野をもつ社会的に有為な人材を育成する。

2 ビジョン (使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像)

- (1) 生徒が学習・部活動・学校行事へ一生懸命に打ち込み、高校生活の中で逞しく成長していく学校
- (2) 生徒の志を高め、学力を着実に伸ばし、高い進路目標を実現していく学校
- (3) 学校関係者及び地域社会との連携・協力を図り、生徒一人一人の生きる力と豊かな人間性を育む学校
これらの実現に向け、すべての教職員がそれぞれの能力と力量を学校の組織力につなげ、果敢に挑戦していく。

3 環境分析

(1) SWOT 分析

内部環境 外部環境	強み (Strength) <ul style="list-style-type: none"> ・学習と部活動を両立させる伝統的な校風が根付いている。 ・基本的な生活習慣の確立がかなりでき、素直な生徒が多い。 ・学校行事が活発であり、保護者が協力的である。 ・理数コースの教育内容が充実している。 ・「学びの変革」パイロットスクールとして活用コアスクールの指定を受けた。 ・姉妹校のあるカナダ語学研修を実施。 	弱み (Weakness) <ul style="list-style-type: none"> ・自分の立てた目標に挑戦する生徒がやや少ない。 ・生徒の自主的な行動や学習習慣の確立が必要である。 ・精神的にひ弱な生徒が増えている。 ・生徒の学力を着実に伸ばす仕組みを再構築する必要がある。 ・坂道の通学路で自転車事故が多い。
機会 (Opportunities) <ul style="list-style-type: none"> ・地元中学校、地元教育関係者や地域社会との連携が継続的にできている。 ・中学校から一定の評価がある。 ・活用コアハイスクールに指定されカリキュラム開発の実績がある。 ・中高生の科学研究実践活動推進プログラム指定校となり支援が充実した。 ・継続的な高大連携推進体制がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高いレベルでの文武両道を実践する生徒を育成する。 ・規律ある学校生活を送らせるとともに、学校行事に積極的に取り組ませることにより、豊かな人間性を育成する。 ・高大連携を継続・発展させ、理数コースの教育内容及び科学研究部の研究内容の深化を図る。 ・生徒の主体的な学びを促進させる取組を深化させる。 ・姉妹校交流プログラムを開発する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が高い志を持ち、自律・挑戦するよう、生徒を鍛えるとともに支援する。 ・教科主任を中心として、組織的な「授業づくり」を推進する。 ・ボランティア活動をより一層推進する。 ・地域に貢献する活動を通して、地域からの信頼と北高ブランドを確立する。 ・生徒が活躍する機会を増やすため、様々な対外的な活動に参加させる。
脅威 (Threats) <ul style="list-style-type: none"> ・広島市中心部への中学生 (受検生) の流出がみられる。 ・大学進学の実績における他校との競争が激しくなっている。 ・理数コースへの入学希望者が安定していない。 ・開校以来リフレッシュ工事がなく、校舎及び施設の老朽化が進んでいる。 ・同窓会活動が低調である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実績の向上及び部活動の活性化で実績を出せる体制を構築する。 ・進学実績において強みを生かせるように、丁寧で粘り強い進学指導を行う。 ・理数コースの教育内容を積極的に情報発信し、志の高い生徒を募集する。 ・挨拶とともに、学校を綺麗にする行動を、北高生として自覚させる。 ・理数コースの優れたコンテンツを積極的に広報する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談活動の充実を図り、生徒への支援体制を強化する。 ・HP の改善に向け人材の育成を図る。 ・学校案内のコンテンツの充実を図る。 ・新たな自転車通学の安全運転研修を実施する。 ・PTA や同窓会との連携を密にとり、学校支援の環境を整える。 ・先輩や上級生との交流の機会を増やし、生徒の自己肯定感を高める。

(2) 学校経営目標

- ① ICE モデルを軸とした主体的な学びを促す授業づくりを組織的に推進する。
- ② 挨拶・自律・思いやりを行動規範とする北高生としての自覚を育み、個に応じた指導や支援を充実させる。
- ③ キャリア教育を通して高い志を育み、組織的・系統的で粘り強い進路指導を推進する。
- ④ 多様な人々と協働して、主体的に行動し、知識基盤社会・グローバル社会を逞しく生き抜く力を育成する。
- ⑤ 理数コースの特色化を進め、教育内容・方法の充実を図るとともに、積極的な情報発信を行う。
- ⑥ 業務改善と校務の効率化を図り、教育環境の整備と働きやすい職場環境づくりを推進する。

4 目標の設定

学校経営目標						
達成目標	評価指標	実績値			目標値	担当部等
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
1 生徒の主体的な学びを促す授業づくりの推進と業務改善の推進 ①⑥						
生徒が主体的に授業に参加するとともに、深い学びを実現している。	生徒の授業評価（4段階評価）【新規】	-	-	-	3.2	教務部
	ICEモデルを軸とした授業構成の実施率【新規】	-	-	-	80%	
	定期試験におけるEレベルの出題率【新規】	-	-	-	10%	
教職員が業務を組織的に遂行し、創意工夫を生かし、業務の改善に取り組み、業務の質的な向上を図っている。	Eビデンスに基づいた改善方針の策定と実施率(分掌単位)【新規】	-	-	-	60%	校務運営会議
2 高い志を持った生徒の進路実現と理数コースの充実 ③⑤						
自己の生き方、在り方を考え、進路目標を設定し、その第一希望の進路実現に向け努力する生徒を育成する指導がなされている。	国公立大学現役合格者数	86人	69人	83人	100人	進路指導部
	大学入試センター試験結果(900点換算)が全国平均点以上の人数	52人	30人	27人	50人	進路指導部
	1年1月模試における国数英総合偏差値54以上の人数	81人	119人	58人	80人	進路指導部
	2年1月模試における国数英総合偏差値54以上の人数	39人	43人	75人	80人	進路指導部
本校の教育活動を、中学生及び保護者等に対して、定期的・効果的に情報発信している。	オープンキャンパスの参加者数	1,316人	1,450人	1,460人	1,500人	総務部
	H Pの更新回数	90回	120回	120回	130回	総務部
探究コースとして、理数コースの授業が展開され、生徒が理数コンピテンシーを発揮している。	評価規準の作成と活用レベル(4段階尺度)【新規】	-	-	-	Bレベル	理数コース
3 北高生として自覚とグローバル社会で逞しく生き抜く力の育成、個に応じた指導や支援の充実 ②④						
家庭学習を習慣化させる取組がなされている。	宅習時間調査での目標達成率(1年130分/日)(2年130分/日)(3年260分/日)	1年37% 2年43% 3年28%	1年50% 2年59% 3年28%	1年40% 2年46% 3年31%	1年55% 2年60% 3年40%	進路指導部
規範意識の高い生徒を育成する指導がなされている。	1日平均の遅刻者数	4.0人	4.0人	4.8人	4.0人	生徒指導部
生徒の自己存在感を高める取組がなされている。	主体的に行事や委員会、部活動、ボランティア活動に参加したと考える生徒の割合	-	89%	80%	90%	生徒指導部
文武両道を目指す生徒を育成する取組がなされている。	部活動加入率【新規】H27年度(84%)	-	-	-	90%	生徒指導部
	中国大会以上出場部数【新規】H27年度 運動部4/20 文化部1/13	-	-	-	運動部6 文化部2	生徒指導部
教育相談体制が整い、生徒支援に役立っている。	生徒・保護者アンケートの肯定的回答率【項目修正】	-	92%	93%	75%	保健部
校内環境美化活動が積極的に行われている。	生徒・保護者アンケートの肯定的回答率【項目修正】	-	85%	92%	75%	保健部

学校経営目標				
	達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	
1 生徒の主体的な学びを促す授業づくりの推進と業務改善の推進 ①⑥				
	生徒が主体的に授業に参加するとともに、深い学びを実現している。	各教科で、ICEモデルを軸とした授業を行い、ICEルーブリックに基づく評価を導入する。また、活用コアスクール推進会議を定期的開催し、学びの変革の実現に向けて、理論的かつ組織的に教科指導力の向上を図る。	本校における授業づくりのスタイルを確立するとともに、ICEルーブリックを核とした授業評価のシステムを構築し、データの蓄積を図る。また、学びの変革に向けた取組の充実による授業研究を推進し、各教科の成果をまとめる。	教務部
	教職員が業務を組織的に遂行し、創意工夫を生かし、業務の改善に取り組み、業務の質的な向上を図っている。	ダブルルーラーニングを導入し、業務を再定義するとともに、創意工夫を生かして実施方法を具現化し、業務遂行をより効率的で効果的なものにする。	改善を基調とする組織的な業務遂行を行い、保護者・地域から信頼される学校づくりをすすめる。	校務運営会議
2 高い志を持った生徒の進路実現と理数コースの充実 ③⑤				
	自己の生き方、在り方を考え、進路目標を設定し、その第一希望の進路実現に向け努力する生徒を育成する指導がなされている。(3年生)	各学年の進路検討会議等を計画的に(4回以上)開催し、担任や教科担任による生徒への指導を充実させるとともに、受験に向けた意識を高めるための組織的・計画的な指導を展開する。また、各学年の進路だよりをタイムリーに各学年8回以上発行し、生徒の進路意識を高める。	自己の適性に応じた望ましい進路目標の設定が可能となるよう、進路ロングホームルームや進路講演会等における指導の内容について適宜見直しを行う。	進路指導部
		生徒の学力分析を進め、各教科等における適切な目標設定や、指導の充実を図る。また、模試返却後、課題のある生徒に対して教科担当者面談を充実させる。	各教科における指導の充実に向けた取組(補習・補充等を含む)を継続して進める。	進路指導部
	家庭学習の習慣を定着させ、第一希望の進路が実現できる学力を身に付けた生徒を育成する指導がなされている。(1・2年生)	進路検討会議を各学期1回以上計画的に開催し、学級担任や教科担当者による生徒への個人面談等の指導を継続するとともに、進路講演会等を通して生徒の学習への意識の向上を図る。	家庭学習の習慣が十分に定着するよう、指導内容について適宜見直しを行う。	進路指導部
		各教科等における適切な目標設定や、指導の充実に向け、生徒の学力分析を進める。	各教科における指導の充実に向けた取組(補習・補充等)を継続して進める。	進路指導部
	本校の教育活動を、中学生及び保護者等に対して、定期的・効果的に情報発信している。	オープンキャンパスを年2回開催するとともに、昨年度改善を図った体験授業や生徒による進行・説明などの更なる充実を図る。また、中学校訪問を充実させ、本校の教育方針や特色について積極的にPR活動を行う。	学校案内のコンテンツの充実を図る等、生徒募集の方法を積極的に改善することにより、地域の優秀な人材を集める。	総務部
		最新の教育活動を発信するため、分掌間の連携を深め、できる限りリアルタイムでのHPの更新に努める。	HPのコンテンツの充実を図る等、積極的にHPの改善を図るとともに、効果的な情報発信のできる人材を育成する。	総務部
		理数コースの活動内容を紹介するパンフレットを作成し、中学生に配付するなど、理数コースの認知度アップに向けた取組を行う。	理数コースの教育活動を積極的に情報発信し、理数コースへの志願者を安定的に確保する。	総務部 理数コース
	探究コースとして、理数コースの授業が展開され、生徒が理数コンピテンシーを発揮している。	探究に係るコンピテンシーの定義とそれを育成するためのカリキュラム開発を行うとともに、コンピテンシー・ルーブリックのプロトタイプを作成し、使用しながら修正・改善を図る。 「中高生の科学研究実践活動推進プログラム」を活動フィールドの柱に位置づける。	生徒が探究的な態度と能力を身につけ、主体的に問題解決に取り組むことができるように、探究コースとして特色あるカリキュラムデザインを行い、実施する。	理数コース

3 北高生としての自覚とグローバル社会で逞しく生き抜く力の育成, 個に応じた指導や支援の充実 ②④

家庭学習を習慣化させる取組がなされている。	学級担任による生徒への個人面談による指導を強化するとともに, 進路講演会等を通して生徒の進路・学習への意識の向上を図る。	家庭学習の習慣が十分に定着するよう, 指導内容について適宜見直しを行う。	進路指導部
規範意識の高い生徒を育成する指導がなされている。	校門指導の継続や遅刻回数に応じた段階的指導を徹底する。また, 担任や学年主任との連携を深め, 生徒の情報を共有して効果的な指導を行う。	校門指導・遅刻指導・登下校マナー指導を通して, 生徒個々の規範意識を高め, 集団の教育力を高める。	生徒指導部
生徒の自己存在感を高める取組がなされている。	掲示板等を活用し, 部活動の活動内容や試合結果を披露する。また, ルワンダへの体育館シューズの寄贈などのボランティア活動を継続・充実させる。地元の小学校・中学校・大学と連携し, 取組の充実を図る。 部活動顧問会議を定期的開催し, 文武両道に向けた指導の充実を図る。	部活動や学校行事, 委員会活動を通して, 集団の一員としての意識を高める。また, ボランティア活動等を通して, 広く社会に目を向けて, 社会貢献していく自己の進路を意識させる。	生徒指導部
文武両道を目指す生徒を育成する取組がなされている。	新入生に対する生徒指導講話等を充実させるとともに, 文武両道を目指す指導をきめ細かく行う。生徒一人一人に目標をもって生活し, 行動するよう生徒指導部が顧問や担任と連携して指導を行う。	生徒一人一人に, 部活動で身につけた集中力や主体性が学業や将来の生活に生かせることに確信をもたせ, 部活動に積極的に取り組ませる。	生徒指導部
特別支援教育活動が組織的に行われている。	学年会・教科会等で教職員間の連携を図り, 生徒の実態把握に努める。生徒に対する対応を早期に行うために, 教育相談, サポート委員会を有効に活用し, 支援を必要とする生徒の支援方針と方法を検討・決定し, 全教職員で組織的な支援を進める。	校内の教育相談活動を充実させるとともに, 教職員間の連携を密にし, 組織的に生徒・保護者へのサポート体制を充実させる。	保健部
校内美化活動が組織的に行われている。	美化委員会や日々の清掃活動, 地域連携による小中高合同美化活動を通して, 生徒の環境美化に対する自主的な活動を促し, 校内全体の取組につなげる。	生徒の自主的態度を育て, 環境美化に対する意識を高める。	保健部